

福井河川国道事務所

資料配布

解 禁
日 時

平成23年12月16日
14時00分

件名

日野川の河川堤防に穴 ～動物の巣穴と推察される～

概要

12月12日に住民から「日野川堤防に穴が開いている」との通報が当事務所にありました。これを受けて現地調査を行ったところ、日野川右岸堤防に4ヶ所（深さ3mまで確認できた穴がありました）の穴が開いていることを確認しました。
翌13日に福井県農林水産部鳥獣害対策室担当者に現地を確認していただいたところ、現地に残っていた穴の大きさ付近の環境等から「動物の巣穴」であることが推察されるとの知見をいただきました。
今後、調査を行った上で、堤防を復旧する予定です。

取扱い

同時配布

福井県政記者クラブ

〈問い合わせ先〉

近畿地方整備局福井河川国道事務所

電話：0776-35-2661（業務時間中）

電話：0776-35-2662（夜間・休日）

副 所 長 宇野 孝一（内線204）

河川管理第一課長 森川 修（内線331）

日野川右岸堤防 7.2k~7.4k 間の「動物の巣穴」について

1. 概要

平成23年12月12日、当事務所九頭竜川出張所に住民から「日野川の堤防に穴が開いている」との通報がありました。これを受け現地調査を行ったところ、別紙の通り不死鳥大橋上流の日野川右岸堤防4ヶ所（川側）に穴が開いているのが確認されました。穴の深さは少なくとも3mの深さまで確認できたものもありました。

翌13日に福井県農林水産部鳥獣害対策室の担当者に現地確認をしていただき、穴の大きさ、付近の環境等から、現地の穴が「動物の巣穴」であることが推察されるとの知見をいただきました。



発見された動物の巣穴（径 10cm×15cm 程度）



動物が巣穴作成時に出来た土塁



動物の足跡の拡大写真



安全対策状況

2. 鳥獣害対策室担当者のご意見

- ① アナグマ、キツネ並びにヌートリアが巣穴を掘る動物として知られている。ヌートリアは水際近くに巣穴を作り、足跡も違う。穴の大きさからから見るとアナグマ

の可能性がある。キツネは出入り口がもう少し大きな穴になるが、付近の環境からいって可能性はある。タヌキやハクビシンも巣穴を利用するが、自分で穴を掘ることはなく、他の動物が作った巣穴を利用する。今回の場合、穴の出入り口の大きさ、付近の環境から、アナグマまたはキツネの巣穴ではないかと推察される。糞が見つかっていないので、特定は難しい。

- ② アナグマ、キツネ共に福井県内に広く分布している。アナグマは県内全市町で捕獲実績があるなど分布頻度が高い。
- ③ アナグマは本来森林を好む動物であるが、時には広い河川敷の堤防などでも掘ることが知られている。また、キツネは山地より開けた草原を好む動物であり、今回のような広い河川敷農地が広がる環境は、生息環境として良い環境である。
- ④ アナグマは巣穴で冬眠するが、秋に単独の雄が思いがけないところへ出かけていって穴を掘ることが知られている。また、キツネは通常繁殖のため春に巣穴を作ることが知られているが、仔別れに伴いキツネの兄弟が近くに巣穴を設けた可能性がある。
- ⑤ アナグマ、キツネとも巣穴は10m以上に及ぶことがあり、地中で枝分かれしている場合が多い。

3. 今後の対応

① 現在の対応状況

現在、堤防の穴4ヶ所にブルーシートで覆い、トラロープによる立ち入り禁止柵、危険表示看板を設置し、緊急的な安全対策を実施しました。

② 今後の対応

ア) 動物の巣穴の調査

動物の巣穴の深度等を把握するため、光ファイバー等を用いて調査を実施します。

イ) 動物の捕獲

動物の巣穴を塞いでも動物が別の場所に新たな巣穴を開けることが考えられるため、動物の捕獲などの対策について関係機関と協議していきます。

ウ) 巡視による堤防の穴の早期発見

これまでも河川巡視において早期の異常発見に努めて参りましたが、付近の堤防において新たな巣穴の早期発見に努めます。

エ) 付近住民への堤防の穴の通報依頼

見つかった穴の付近に「堤防の穴の通報依頼看板」を設置すると共に、付近住民に対して通報協力依頼のチラシの配布を予定しています。

オ) 堤防に新たな巣穴を見つけた場合、とりあえず土のうで塞ぐとともに、「夜間警告灯」を設置して夜行性の動物が近づかないようにします。

カ) 穴の調査が完了後、堤防の巣穴付近を掘削し、再盛立により堤防の復旧を行います。

動物の巣穴発見位置図

